

# ゆめ わらわ 夢 文章

菅波 茂

岡山市北部・西部の開業医らでつくる御津医師会が保健衛生の向上などに貢献した団体・個人に贈られる「第69回保健文化賞」を受賞した。受賞理由は「夜間診療輪番制、病診連携、限界集落の医療対応、在宅医療連携推進、有事の場合の医師派遣等から成る地域医療を守る相互扶助プログラムを作成、実施した。また、行政、歯科医師会、薬剤師会等の団体、学校及び病院等との連携強化を図り、地域医療の推進に貢献している」とされた。

元御津医師会長として医師会の歩みを心から祝したい。

日本の平均寿命は世界トップクラスだが、それを

を支える医療には日本の特徴がある。日本は法治国家であり、ガバナンスは法に基づく。平均寿命に寄与した主たる法律は健康保険法に基づく国民健康保険法、保健所法として母子保健法などである。これらの法の精神は「相互扶助」である。これらの法律に基づいて政府と民間が協力して国民の健康増進に關与している。具体的には施設整備、人材育成と配置、医療技術と医療関連製品開発、財政対応などである。

国民健康保険法が成功した理由を列記してみた。

①国保診療所のへき地を含めた全国展開により国民保険加入者がいつで

## 御津医師会の保健文化賞受賞



保健文化賞の贈呈式で表彰される御津医師会の大橋基会長（右）—御津医師会提供

もどこでも、適切な医療を受けることができる機会を保障（社会主義国は日本だけ）

②官僚行政への信頼（アジアでは日本とシンガポールが著明）

③義務教育による高い識字率が健康・衛生教育に寄与（世界でも特異な厚生労働省と文部科学省の両者が関与する学校保健制度）

④日本医師会から地区医師会における公共医療

困る」の意味である。英語では公益も公共も「Public Interest」で表現する。これは公益のみの意味だと思

世界中を見ても、縦割り行政の最終受け皿としての地区医師会の存在は日本しかない。具体的には文科省の学校保健、厚生労働省の地域保健と産業保健、総務省の警察支援、休日当番制などである。

現時点における地区医師会の構成メンバーの主力は開業医である。開業医は24時間365日、死ぬまで地域社会の一員である。場合によっては2代、3代と続く。60年、90年の地域社会との家族ぐるみの接点がある。地域社会から注目されている。地域社会における倫理道徳の範も求められる。それに加えて倒産の可能性が常にある。これらのことが開業医と勤務医の決定的な違いである。開業医主導か勤務医主導のいずれでも、地区医師会による「地域社会における相互扶助」による公共医療政策への關与を後退させないことが肝要である。

地区医師会が公共医療政策を担っている精神は「地域社会における相互扶助」である。地区医師会がその役割を放棄した時に、誰が代わりうるのか。その時の経費はどのくらいなのか。行政にとっては考えたくもない悪夢である。

地域医療に不可欠な地区医師会として、御津医師会を世界へ発信することを考えたい。（AMDグループ代表）